

# 2014 年度事業報告・会計報告

認定 NPO 法人共存の森ネットワーク

## 認定 NPO 法人共存の森ネットワークの活動指針

当 NPO は、「聞き書き甲子園」の活動と、この事業に参加した経験をもつ卒業生有志からはじまった「共存の森」と呼ぶ活動を母体に生まれました。

森とともに生きてきた先人たちの伝統的な暮らしの知恵や技の集積の中に持続可能な社会の基本があることを見据えながら、人と自然・人と人との「共存」を基本とした社会づくりと、新たな価値観の創造に寄与することを目的としています。

そのために、当 NPO は「聞き書き甲子園」の運営をはじめ、「閉じられた生態系—地球—」の上で全人類と他の生物が共存するための「人づくり」、「森づくり」、「地域づくり」、「情報発信」等、様々な活動を展開していきます。

これらの活動を末永く続けていくことが、持続可能な社会の構築への一歩と考えます。そのためには、大人たちから若い世代へ、若い世代から大学生・高校生へと、世代をつないでいくことが重要です。

当 NPO の使命と社会的役割について、会員の皆様の積極的な議論を期待するとともに、引き続き、活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 第1号議案-1 2014年度事業報告(案) <2014年5月1日~2015年4月30日>

### 概要

前年度に引き続き、「聞き書き甲子園」の開催を通じた青少年教育事業や、大学生らによる「共存の森」の活動を中心とした森づくり事業、「聞き書き」の手法を活用した地域づくり事業や国内外への普及啓発事業などを実施しました。また、「海・川の名人」への聞き書きや、共存の森・中四国のアマモ場の再生活動、中学生を対象とした海洋教育など、海や川の自然と人の共生をテーマとした取り組みも継続して行っています。

2014年度は、更に小学校を対象とした森林環境教育推進のための事業「学校の森・子どもサミット」の開催を通して、より幅広い世代を対象とした環境教育の推進、次世代の育成に取り組んで参りました。

これらの活動に対するご支援、ご協力に感謝を申し上げますと共に、ご報告申し上げます。

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

「聞き書き甲子園」は、2014年度で第13回目の開催となりました。本年度は、「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」の最終年であり、様々なESDに関連する場において、卒業生らによって編成された学生スタッフメンバーが、普及啓発に取り組む機会を得ました。

また、小中学生が海や川の生業や地域の環境・歴史・文化を学ぶ教育活動支援や事例調査を通じ、海洋教育の普及にも引き続き取り組んでいます。

### 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

「聞き書き甲子園」の卒業生有志から始まった「共存の森」の活動は、全国6地区7地域にて活動を行いました。東海地区では地域の課題に応じた竹林整備、北陸地区では棚田の保全活動と聞き取りをベースにしたパンフレット作り、九州地区では村の暮らしに関する聞き書きと廃校の裏山整備を実施する等、各地区の特色を生かした活動に取り組みました。

なお、「共存の森」北陸チームは、引き続きキヤノンマーケティングジャパングループの社会貢献活動「未来につなぐふるさとプロジェクト」の協働パートナーとして、企業・地域・学生の三者協働による活動を行っています。

### 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

今年度より林野庁とその関連団体との協働により「学校の森・子どもサミット」を開催するための事務局を担うことになりました。東京で第1回サミットを開催し、全国から集まった小学生児童による森林体験学習についての発表、学校現場の課題解決のための分科会などを通して、小学校での森林環境教育の普及・啓発に取り組みました。

当NPOの学生会員を中心とした「コトバのたびプロジェクト」(「聞き書き」と朗読を組み合わせた活動)は、本年度は、被災地支援を行っている学生団体Youth for 3.11との協働で、宮城県で実施しました。

また、全国アマモサミットとの併設イベントである「第2回海辺の自然再生・高校生サミット」を、NPO法人海辺つくり研究会との協働により青森県で開催しました。

### 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

前年度に引き続き、第3回「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を石川県世界農業遺産活用実行委員会より受託し、実施しました。また、同じく世界農業遺産に指定された大分県国東半島・宇佐地域で高校生による「聞き書き」を支援しました。

## I 組織

### 1. 会員（2015年4月30日現在）

	一般会員	ユース会員	法人・団体会員
正会員	48人 (+3)	50人 (0)	
賛助会員	31人 40口 (+1人、+1口)		4社8口 (+1社、+1口)

※ユース会員・・・・・・満23歳未満で正会員となる方

※ ()・・・・・・昨年同時期からの増減

### 2. 役員（敬称略）

体制表

役職	氏名	所属
理事	澁澤 壽一	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長
理事	吉野 奈保子	「聞き書き甲子園」実行委員会事務局
理事	竹田 純一	里地ネットワーク事務局長
理事	あん まくどなると	上智大学大学院地球環境学研究科教授
理事	木村 尚	NPO 法人海辺つくり研究会理事・事務局長
理事	中山 幹生	東京農業大学農山村支援センター研究員
理事	工藤 大貴	慶應義塾大学3年
理事	岡部 憲和	九州大学大学院2年
理事	峯川 大	大東文化大学4年
理事	大黒 朱梨	同志社大学3年
監事	能登谷 愛貴	NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター職員
監事	森山 里菜	株式会社渋谷サービス公社職員

## II 事業

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

#### ① 第13回「聞き書き甲子園」の開催

「もりのくに・にっぽん運動」の一環として実施している「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が、森や海・川に関わる様々な分野で活躍する「森の名手・名人」「海・川の名人」への「聞き書き」を通して、名人が先人たちから受け継いできた自然と共に生きる知恵や技、ものの考え方を学ぶとともに、世代間のコミュニケーションを図ることで、次代を担う若者を育成することを目的に行っています。

農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、公益社団法人全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協同組合連合会と当 NPO の7者で構成する実行委員会が主催し、株式会社ファミリーマートの募金協力をはじめとする企業・団体からの寄付金や協賛金、公益財団法人日本財団の助成金により実施しています。

今年度は、全国から99校（うち35校が新規応募校）から150名の応募があり、うち100名の高校生が参加しました。

参加高校生は8月の事前研修で「聞き書き」の手法や名人の仕事についてなど、取材に必要な知識とスキルを学び、9月から12月にかけて名人の取材を行いました。これらの総括となる3月のフォーラムでは3組の高校生と名人が「聞き書き」の体験談を発表した他、『「聞く」ことから始める地域づくり』と題して、大学生や若者によるパネルディスカッションを行いました。また参加高校生はワークショップを通して「聞き書き」の取り組みを振り返り、今後の自身の生き方について考えました。

#### [2014年度の実施スケジュール]

5月9日～7月1日	参加高校生募集
7月21日	参加高校生決定
8月11日～14日	聞き書き事前研修実施（於：都民ホール、高尾の森わくわくビレッジ）
9月21日～12月	参加高校生による名人への取材
1月7日	聞き書き作品の提出締切り・優秀作品（6作品）の選考
3月28日～29日	フォーラム（成果発表会）開催（於：東京大学弥生講堂一条ホール）
4月21日	「聞き書き作品集」完成、参加者・関係者に送付

#### ◆ 「聞き書き甲子園×森の教室どんぐりくんと森の仲間たち in 海の森」の実施

フォーラム翌日の3月29日には、東京都中央防波堤内側埋立地「海の森」にて、「聞き書き甲子園×森の教室どんぐりくんと森の仲間たち in 海の森」と題して、株式会社ファミリーマートの募金協力により参加高校生と埼玉県みわ幼稚園の園児と家族60名が参加して植樹活動を行いました。なお、同事業は「東京都海の森倶楽部」の会員事業として東京都港湾局の共催により実施しました。

※「東京都海の森倶楽部」は、「海の森」について広く国内外に発信するとともに、多様で魅力的な行催事や樹林地管理等の機会を広く都民に提供し、都民サービスの向上を図るため、東京都港湾局が企業、団体等に広く参画を呼びかけ設置した任意組織で、当 NPO も会員として加入しています。

※「森の教室 どんぐりくんと森の仲間たち」とは、(公社)国土緑化推進機構がファミリーマートの店頭募金「夢の掛け橋募金」の寄付により実施しているプログラムです。全国の幼稚園・保育園を巡回し、園児たちがどんぐりの苗木を育てることを通して、森の大切さを学ぶ教室です。

#### ◆ FOXFIRE 倶楽部の開催

「聞き書き甲子園」の運営にかかわる行政、協賛企業、団体等が集まり、「もりのくに・にっぽん運動」全般や「聞き書き甲子園」の今後の展望について意見交換を行う会議で、2014年度は7月8日と10月28日に開催しました。会では学生スタッフより事業報告を行い、学生発案の企画に対する意見交換等を行ったほか、交流会を通して「聞き書き甲子園」に対する考えや想いを共有しました。

※「もりのくに・にっぽん運動」とは2002年度に「森の名手・名人」の選定事業を軸に、公益社団法人国土緑化推進機構の呼びかけにより始まった。現在は「先人たちから受け継いだ知恵や技を改めて見出し、次世代に継承することを通じて、人と自然が共存する新たな価値観とライフスタイルを提唱し、持続可能な社会づくりに貢献することを目指す」ことを目的とし、「森・海・川の名人選定事業」「聞き書き甲子園の実施」「森と人、人と人、世代と世代をつなぐ地域づくり活動の推進」「国内外への普及・啓発活動の展開」の4つの事業を行う市民・行政・企業・NPOなど多様な主体のプラットフォームとして位置づけ、同機構と当NPOが事務局を担っている。

#### ◆ 「聞き書き作品」電子図書館化

「聞き書き電子図書館」はウェブ上で聞き書き作品を検索・閲覧できるシステムで、一般社団法人農山漁村文化協会と協働で運営を行っています。昨年度は、第12回聞き書き甲子園の作品のデータを整理し、同電子図書館へ収録しました。現在、計1174作品を収録しています。

#### ◆ ESD ユネスコ世界会議を通じた国内外への発信

ESD ユネスコ世界会議開催にあわせて、愛知県名古屋市中区で11月8～9日に行われた「あいち・なごやESD交流フェスタ」で、「聞き書き甲子園」のブース出展と卒業生によるステージ発表を行いました。また、11月12日に名古屋国際会議場にて行われた併催イベント「ESD交流セミナー」のうち、林野庁主催による「森林環境教育の充実とESDの推進」で「聞き書き甲子園」の取り組みを発表しました。

※ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳します。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

#### ② 海洋教育プログラムの実施

昨年度に引き続き、小中学校での海洋教育の普及を目指して、石川県輪島市と岡山県備前市にて小中学生を対象とした海洋教育プログラムを実施しました。

石川県では、石川県教育委員会生涯学習課と協働で、「海洋チャレンジプログラム」を実施。石川県の大学生がサポートに入り、小学生の舳倉島での海女と地域の暮らしを学ぶ体験活動を実施しました。

岡山県備前市立日生中学校では、中学1年と3年(計120人)によるアマモ場の再生活動と、中学1年生による水産関係者やアマモ場再生に関わるNPO職員等への「聞き書き」が行われ、「聞き書き甲子園」の卒業生を中心とした大学生が年間を通して授業のサポートと、まとめ作業のサポートを行いました。また、これらの取り組みを、8月19日は日生町漁業協働組合で地域住民(参加者約40名)を対象に、また、3月23日には岡山市内のオルガホールでアマモ場の再生活動に取り組む関係者(参加者約80名)を対象に、セミナーを開催し、発表しました。

あわせて、全国各地の小中学校の「海洋教育」の実施状況等に関する事例調査を行いました。

## 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

### ① 「共存の森」の活動

関東、関西、北陸、東海、中国・四国、九州の6地区、7地域で活動を行いました。

#### <各地区の活動概要>

関東地区：千葉縣市原市の「鶴舞創造の森」では、昨年に引き続き、散策道の整備等を行いました。また、山小川地区では地域の魅力を発信するための「地元学」を行い、その様子は10月にBSフジの『Table of Dreams～夢の食卓～』で紹介されました。

関西地区：滋賀県大津市堂町では、龍谷大学の学生が立ち上げた「お野菜大学」と共同で、堂町の祭礼行事等の手伝いを行ったほか、4月には同大学にて映画『森聞き』の上映会を行い、学生や近隣の里山で活動する人に向けて、共存の森の活動紹介を行いました。奈良県川上村高原地区では地域の空き家マップと、これまでの「聞き書き」のとりまとめを行うとともに、これらの活用方法について地域の方との意見交換を行いました。

北陸地区：今年度は全参加者が新メンバーと言う顔ぶれだったため、活動フィールドである新潟県村上市高根地区についてよく知ることを目標に活動を行いました。例年行っているキャノンマーケティングジャパングループとの棚田の保全活動や地区の行事への参加と並行して、地域の人たちへの聞き取り調査をもとに高根フロンティアクラブが運営する食堂「IRORI」のパンフレット製作を行い、次年度から長期的な視野で活動を行うための話し合いを重ねました。

東海地区：愛知県豊田市足助の椿立地区にて、地域の方と共に竹林整備を行い、竹の活用を行うために竹灯籠や竹炭の試作品の製作を行いました。また、地元の高齢の方4名から椿立で行われてきた竹の利用方法について話を聞き、今後の竹の活用方法について検討しました。

中国・四国地区：岡山県備前市日生にて、日生町漁業協働組合とおかやまコープと共にアマモ場再生活動に取り組み、あわせて、漁協役員より日生の漁業や魚食文化の聞き取りを行いました。また、日生中学校の海洋教育の支援を行いました。

九州地区：福岡県八女市矢部村にて、活動拠点となっている「柚のふるさと文化館」（矢部中学校の旧校舎）の裏山整備を行い、公園の看板作りを行うとともに、地域の暮らしを知るために地元料理をふるまう食堂を運営する地域のお母さん方や地域の若者など4組の「聞き書き」を行いました。

#### 《活動回数と参加者》

関東地区 5回、延べ46人（1回当たり平均9.2人）

関西地区 [堂] 7回、延べ29人（1回当たり平均4.1人）

[高原] 3回、延べ19人（1回当たり平均4.75人）

北陸地区 7回、延べ133人（1回当たり平均19人）

東海地区 5回、延べ30人（1回あたり平均6人）

中国・四国地区 3回、延べ30人（1回あたり平均10人）

九州地区 4回、延べ13人（1回あたり平均4.3人）

活動回数：フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

参加者：活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

### ② キャノンマーケティングジャパングループとの協働活動

共存の森「北陸地区」では、キャノンマーケティングジャパングループの社会貢献活動「未来

「つながるさとプロジェクト」の協働パートナーとして、高根フロンティアクラブとともに、「棚田のふるさとづくり」の活動を実施しています。

今年度は、前年度に引き続き、稲作を体験しながら、高根集落の暮らしや自然を体験するプログラムを実施しました。また、当社による写真教室のサポートも行いました。

#### 《活動回数と参加者》

北陸地区：4回 延べ103人（1回あたりの平均25.8人）

活動回数→フィールドでの活動のみ（会議、打ち合わせ等は除く）

参加者→活動に協力いただいている地域の方や事務局スタッフ等は除く。

### 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

#### ① 「学校の森・子どもサミット」の開催

学校の森・子どもサミットは、全国から集まった子どもたちによる「学校林」や国有林における「遊々の森」等の身近な森林を活用した学校での体験活動や教育活動の発表、森林（もり）づくりの夢の発表、身近な森林を活用した学校教育を広げていくための先生方の意見交換などを行い、これらの情報発信を通じて、小学校における森林環境教育の活動の輪を全国に広げていくことを目的としています。同サミットは、林野庁とその関連団体等で組織した実行委員会が主催し、当NPOはその事務局を担いました。

本年度の第1回サミットは、KDDI株式会社、一般財団法人セブン-イレブン記念財団など複数の企業・団体による協賛や積水ハウスマッチングプログラムによる助成等により、8月5日～6日に東京で開催しました。当日は、全国12校46名の児童による森林体験学習についての発表や分科会を開催し、約250名が来場しました。サミット翌日は、参加校を対象に、明治神宮での森林体験学習を行いました。

#### ② 「コトバのたび」プロジェクトの実施

「コトバのたび」プロジェクトは、「聞き書き」とその「朗読」を組み合わせた活動で、地域と有機的につながっていききたいという当NPOの学生の思いから企画されました。本年度は、被災地支援を行っている学生団体Youth for 3.11との協働プロジェクトにより、宮城県北上町十三浜大指と宮城県牡鹿半島福貴浦にて1月から3月にかけて、KDDI株式会社の支援等により実施しました。また一昨年、新潟県村上市高根区で行った同プロジェクトの冊子「たかねのね」は、同社の協力によりauの電子書籍に無料配信されました。今回の宮城県でのプロジェクトで制作する冊子についても、完成次第、電子書籍として配信される予定です。

#### ③ 「海辺の自然再生・高校生サミット」の開催

「海辺の自然再生・高校生サミット」は、海辺の自然再生に取り組む全国の高校生による活動発表や交流活動を通して、次世代を中心とした活動の輪を全国に広げていく取り組みです。本年度は9月27日に、青森県で行われた「全国アマモサミット in あおもり」の併設イベントとして、第2回の高中生サミットを一般財団法人セブン-イレブン記念財団の助成により、NPO法人海辺づくり研究会とともに開催しました。全国6校14名の高校生による活動発表の場には、約100名が来場し、活発な意見交換を行いました。



#### 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

##### ① 能登の里山里海人の知恵の伝承事業

前年度に引き続き、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を石川県世界農業遺産活用実行委員会より受託し、実施しました。本年度は、能登半島の11校24名の高校生が参加し、11人の「能登の里山里海人」の聞き書き作品を冊子にまとめました。

##### ② 大分県国東半島宇佐地域での高校生による聞き書き

能登半島と同じく、世界農業遺産に選定された大分県国東半島・宇佐地域において、高校生による名人の「聞き書き」が、大分県の事業として実施されました。当NPOは、6校12名の高校生を対象とした「聞き書き」研修の運営や作品のまとめの指導を行いました。

#### 5. その他

##### ① 運営委員会の開催

学生理事や「共存の森」各地区のリーダーを中心に、「共存の森」の活動方針等について話し合う「運営委員会」を8月15日、12月27日・28日、3月27日に行いました。「共存の森」各地区の活動計画に関する意見交換や活動費用に関する検討を行ったほか、今後の学生による活動運営方法等についての自由な意見が交わされました。

##### ② インターン生の受入

公益財団法人損保ジャパン環境財団「CSOラーニング制度」を通して、2014年6月～2015年1月まで東京農業大学の本間耕太郎さんをインターンとして受け入れました。また2014年7月～10月まで日本農業経営大学から一期生の尾曾和成さんをインターンとして迎えました。

##### ③ 広報活動

年2回発行している当NPOの会報誌『ZON』、ホームページ、facebook、オフィシャルブログ、公式twitter、メールマガジン等を通して広報活動を行いました。また、他団体が主催するイベントへのパネル出展等も行いました。

###### (1) 出展・発表イベント

- 11月8～9日 : ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや併設イベント「ESD 交流フェスタ」  
(主催: ESD ユネスコ世界会議あいち・なごや実行委員会 於: 愛知県名古屋市)
- 11月12日 : 同「ESD 交流セミナー」のうち「森林環境教育の充実と ESD の推進」  
(主催: 林野庁 於: 愛知県名古屋市)
- 12月11～13日 : エコプロダクツ 2014  
(主催: (一社) 産業環境管理協会、日本経済新聞社 於: 東京都江東区)
- 2月11日 : 第2回おかやま環境ミーティング  
(主催: 岡山県、おかやま環境ミーティング実行委員会 於: 岡山県岡山市)
- 3月25日 : ESD ユース全国大会 (主催: 環境省 於: 東京都港区)

(2) 新聞・雑誌等の掲載

「聞き書き甲子園」関連：25件 「共存の森」関連：4件

「学校の森・子どもサミット」関連：8件

(3) ラジオ・テレビ番組等

「聞き書き甲子園」関連：0件 「共存の森」関連：1件

「学校の森・子どもサミット」関連：2件

④ 寄付金募集活動

2014年の8月から2015年2月まで株式会社良品計画のご協力により無印良品のネット通販サイトの寄附ページにて当団体をご支援いただきました。また、株式会社ネットプロダクションが運営する「フフルポイント」のポイント交換先として紹介頂き、交換されたポイント分の寄付をいただきました。また、昨年から引き続き、株式会社セプテーニ・ホールディングスが運営する寄付サイト「gooddo(グッドゥ)」、キヤノンマーケティングジャパン株式会社のクリック募金、公益財団法人パブリックリソース財団の運営する「Give One」などインターネットサイトを通じた寄付をいただいています。

第1号議案-2 2014年度決算書(案)

1. 2014年度 活動計算書(案)

書式第13号(法第28条関係)

平成26年度 活動計算書(案)			
平成26年 5月 1日から平成27年 4月30日まで			
認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク			
(単位:円)			
科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	311,000		
賛助会員受取会費	219,000	530,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金		386,456	
3 受取助成金等			
受取助成金	20,360,217		
受取協賛金	28,223,963	48,584,180	
4 事業収益			
青少年教育事業収益(注1)	283,839		
普及啓発事業収益(注2)	69,795		
森づくり事業収益(注3)	185,560		
地域づくり事業収益(注4)	2,227,556	2,766,750	
5 その他収益			
受取利息	4,789		
雑収益	581,800	586,589	
経常収益計			52,853,975
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
理事報酬	2,400,000		
給料手当	5,883,000		
法定福利費	806,780		
福利厚生費	4,954		
人件費計	9,094,734		
(2)その他経費			
書籍仕入高	11,632		
広告宣伝費	45,665		
活動費	385,300		
印刷費	4,437,486		
支払手数料	283,650		
制作費	3,363,965		
施設借上費	2,014,312		
講師料	1,252,101		
リース料	666,913		
原稿料	96,822		
水道光熱費	13,311		
車両借上費	1,151,838		
事務用品費	389,143		
消耗品費	23,550		
地代家賃	1,350,000		
保険料	135,273		
修繕費	23,382		
租税公課	1,000		

旅費交通費	20,516,338		
通信運搬費	1,547,264		
諸会費	3,200		
会議費	617,879		
新聞図書費	7,466		
委託費	2,783,812		
道具資材費	81,689		
雑費	55,487		
その他経費計	41,258,478		
事業費計		50,353,212	
2 管理費			
(1)その他経費			
印刷費	197,424		
支払手数料	40,402		
制作費	133,644		
車両借上費	21,230		
事務用品費	12,910		
消耗品費	67,206		
地代家賃	450,000		
修繕費	45,360		
租税公課	265,180		
旅費交通費	207,060		
通信運搬費	37,188		
諸会費	15,000		
会議費	78,931		
新聞図書費	2,376		
委託費	304,959		
その他経費計	1,878,870		
管理費計		1,878,870	
経常費用計			52,232,082
当期経常増減額			621,893
税引前当期正味財産増減額			621,893
当期正味財産増減額			621,893
前期繰越正味財産額			15,966,677
次期繰越正味財産額			16,588,570

## 2. 2014年度 計算書類の注記(案)

書式第16号(法第28条関係)

### 平成26年度 計算書類の注記(案)

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

1. 重要な会計方針  
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準(平成22年7月20日 平成23年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。  
 (1) 消費税等の会計処理  
 消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

(単位:円)

科目	青少年教育事業(注1)	普及啓発事業(注2)	森づくり事業(注3)	地域づくり事業(注4)	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>							
1. 受取会費					0	530,000	530,000
2. 受取寄附金			333,640		333,640	52,816	386,456
3. 受取助成金等	36,585,100	8,794,206	3,154,874		48,534,180	50,000	48,584,180
4. 事業収益	283,839	69,795	185,560	2,227,556	2,766,750		2,766,750
5. その他収益	202,000		110,000		312,000	274,589	586,589
経常収益計	37,070,939	8,864,001	3,784,074	2,227,556	51,946,570	907,405	52,853,975
<b>II 経常費用</b>							
(1) 人件費							
理事報酬	2,200,000	200,000			2,400,000		2,400,000
給料手当	5,433,000	450,000			5,883,000		5,883,000
法定福利費	748,916	57,864			806,780		806,780
福利厚生費		4,954			4,954		4,954
					0		0
人件費計	8,381,916	712,818	0	0	9,094,734	0	9,094,734
(2) その他経費							
書籍仕入高		11,632			11,632		11,632
広告宣伝費		45,665			45,665		45,665
活動費	10,000		375,300		385,300		385,300
印刷費	2,995,979	1,251,027	190,480		4,437,486	197,424	4,634,910
支払手数料	175,974	107,028		648	283,650	40,402	324,052
制作費	2,266,643	595,000	2,322	500,000	3,363,965	133,644	3,497,609
施設借上費	1,056,932	4,000	537,660	415,720	2,014,312		2,014,312
講師料	1,139,827	82,274	30,000		1,252,101		1,252,101
リース料	534,978	100,615	31,320		666,913		666,913
原稿料				96,822	96,822		96,822
水道光熱費			13,311		13,311		13,311
車両借上費	175,200	45,704	930,934		1,151,838	21,230	1,173,068
事務用品費	244,694	142,107	2,342		389,143	12,910	402,053
消耗品費	13,066	246	10,238		23,550	67,206	90,756
地代家賃	1,050,000	300,000			1,350,000	450,000	1,800,000
保険料	132,273	3,000			135,273		135,273
修繕費	23,382				23,382	45,360	68,742
租税公課				1,000	1,000	265,180	266,180
旅費交通費	16,209,992	2,980,422	1,012,984	312,940	20,516,338	207,060	20,723,398
通信運搬費	733,262	748,971	55,164	9,867	1,547,264	37,188	1,584,452
諸会費	1,200		2,000		3,200	15,000	18,200
会議費	266,780	271,020	62,897	17,182	617,879	78,931	696,810
新聞図書費	5,466		2,000		7,466	2,376	9,842
委託費	1,350,052	464,160	192,000	777,600	2,783,812	304,959	3,088,771
道具資材費	49,619	27,216	4,854		81,689		81,689
雑費	6,487	30,000	7,120	11,880	55,487		55,487
					0		0
その他経費計	28,441,806	7,210,087	3,462,926	2,143,659	41,258,478	1,878,870	43,137,348
経常費用計	36,823,722	7,922,905	3,462,926	2,143,659	50,353,212	1,878,870	52,232,082
当期経常増減額	247,217	941,096	321,148	83,897	1,593,358	-971,465	621,893

3. 事業正式名称  
 (注1) 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業  
 (注2) 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業  
 (注3) 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業  
 (注4) 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

### 3. 2014年度 財産目録(案)

書式第17号(法第28条関係)

#### 平成26年度 財産目録(案)

平成27年 4月30日現在

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

(単位:円)

科 目	金 額	
<b>I 資産の部</b>		
<b>1 流動資産</b>		
現金預金		
手元現金	664,554	
(株)三菱東京UFJ銀行 本店 普通預金	0	
(株)三菱東京UFJ銀行 本店 普通預金	38,102,280	
(株)三井住友銀行 世田谷支店 普通預金	945,116	
(株)みずほ銀行 世田谷支店 普通預金	12,553,190	
(株)ゆうちょ銀行 〇一八支店 普通預金	300,074	
未収入金		
(公社)国土緑化推進機構	1,837,771	
前払費用		
本州四国連絡高速道路(株)	7,200	
烏城二の丸パーキング	600	
久米加石油(株)	7,056	
PFI区部ユース・プラザ(株)	4,644	
岡山市民会館コンソーシアム	1,750	
国内線ドットコム(株)	29,680	
(株)アウトライン	46,470	
アスクル(株)	22,982	
ニッポンレンタカーサービス(株)	7,385	
東日本旅客鉄道(株)	41,700	
東海旅客鉄道(株)	10,370	
さくらインターネット(株)	4,043	
流動資産合計		54,586,865
<b>2 固定資産</b>		
固定資産合計		0
<b>資産合計</b>		<b>54,586,865</b>
<b>II 負債の部</b>		
<b>1 流動負債</b>		
未払金		
従業員給料・交通費	945,448	
世田谷年金事務所	137,970	
ヤマト運輸(株)	2,268	
日本郵便(株)	76,961	

ニッポンレンタカーサービス(株)	154,483		
(株)エスパシオ	31,290		
オリックス(株)	13,392		
(株)紙藤原	3,564		
高根フロンティアクラブ	360,000		
(株)エー・アイ・コンサルティング	836,240		
(株)ダイオーズサービシーズ	4,968		
(株)三井住友銀行	2,160		
(株)三菱東京UFJ銀行	55,620		
根岸光一	2,020		
大柄重人	157,310		
ラディックス(株)	101,957		
前受金			
北陸活動	579,944		
BESSフォレストクラブ	1,500,000		
(株)長塚電話工業所	80,000		
(一財)セブン・イレブン記念財団	1,002,206		
トヨタ自動車(株)	3,285,660		
(特非)日本エコツアーリズム協会	2,000,000		
学校の森・子どもサミット活動	746,137		
(株)トンボ	100,000		
岡山県山林種苗協同組合	50,000		
岡山県森林組合連合会	200,000		
(一社)大阪林業土木協会	100,000		
(一社)林道安全協会関東支所	50,000		
(一財)日本森林林業振興会大阪支部	500,000		
全国国有林造林生産業連絡協議会	100,000		
積水化学工業(株)	1,000,000		
積水ハウス(株)	800,000		
(特非)日本学生ボランティアセンター	112,531		
(公財)大阪コミュニティ財団	250,000		
もりのくに・にっぽん運動	17,555,469		
(特非)海辺つくり研究会	1,091,466		
(公財)日本財団	202,000		
(公社)国土緑化推進機構	3,500,000		
預り金			
源泉所得税	307,231		
流動負債合計		37,998,295	
負債合計			37,998,295
正味財産			16,588,570

#### 4. 2014年度決算についての監査報告書

### 監 査 報 告 書


認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2014年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2015年 6 月 8 日

認定特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 能登谷 愛貴 



## 監 査 報 告 書


認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワークの

2014年度決算について監査の結果、事業報告は事業の  
内容を適切に反映していると認めます。

2015年 6 月 8 日

認定特定非営利活動法人

共存の森ネットワーク

監事 森山 里菜 

## 第2号議案-1 2015年度事業計画（案）〈2015年5月1日～2016年4月30日〉

### 概要

来年、2016年に「聞き書き甲子園」は15年目の節目を迎えます。これまでの活動を振り返り、今後の活動への新たな一歩を踏み出せるよう、学生を中心に15周年記念企画を検討します。

また、本年度からトヨタ自動車環境活動助成プログラムにより、インドネシアの高校生による「聞き書き」を再開し、日本とインドネシアの高校生による交流活動を行います。

世界農業遺産に選定された地域では、石川県能登半島に加えて、大分県国東半島・宇佐地域において、地元高校生による「聞き書き」を実施します。

また、海洋教育の支援や「学校の森・子どもサミット」開催を通じて、小中学生を対象とした教育支援や学校間のネットワークづくりなど、より幅広い環境教育の推進に取り組んでまいります。引き続き、皆様の活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

本年度「聞き書き甲子園」は第14回開催を迎えます。

これまでも「聞き書き甲子園」は、同活動を体験した高校生・大学生のサポートスタッフを中心に運営を行ってきましたが、引き続き、学生の関わりを強化し、次代を担うリーダーの育成に努めます。

また、公益財団法人日本財団の助成により、「海・川の名人」への「聞き書き」実施とあわせて、備前市立日生中学校における海洋教育を支援するとともに、各地の教育事例をまとめた書籍を出版します。

### 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

関東、関西、北陸、東海、中国・四国、九州地区で活動を継続します。北陸地区の活動については、キャノンマーケティングジャングループとの協働により実施します。

### 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

昨年度に引き続き、「学校の森・子どもサミット」を岡山県で開催します。また、本年、熊本県で開催される「全国アマモサミット」の併設イベントとして第3回「海辺の自然再生・高校生サミット」を開催します。

また、インドネシアの民族固有の言語（地方語）と生物多様性保全を目的とした「聞き書き」を、ボゴール農科大学附属コルニタ高等学校等で実施し、日本とインドネシアの高校生による交流活動を行います。

### 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

前年度に引き続き、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を石川県世界農業遺産活用実行委員会より受託し、実施します。また、大分県国東半島・宇佐地域での高校生による聞き書きを、大分県より受託し、実施します。

## 事業計画

### 1. 人の暮らしと自然をテーマとした青少年等に対する学習・教育事業

#### ① 第14回「聞き書き甲子園」の開催

昨年同様に農林水産省、文部科学省、環境省と関係団体からなる実行委員会の主催により、第14回「聞き書き甲子園」を開催します。

全国より100名の高校生を募集し、「森の名手・名人」「海・川の名人」の「聞き書き」を実施します。また、事前研修やフォーラム、年間を通しての高校生のサポート等を「聞き書き甲子園」を経験した卒業生を中心とした学生スタッフ約20名が行うとともに、当事業を普及するための企画を学生スタッフで検討し、実施していきます。

また、当事業は多数の企業・団体よりご支援とご協力をいただいております。中でも10年以上にわたり、夢の架け橋募金による募金協力と、会社からのマッチング寄附により支援いただいている株式会社ファミリーマートに、実行委員会より感謝状を贈呈します。

#### 【「第14回聞き書き甲子園」開催スケジュール】

2015年5月13日～7月1日	参加高校生募集
7月下旬	参加高校生決定
8月11日～14日	聞き書き甲子園事前研修 ＜於：都庁都民ホール・高尾の森わくわくビレッジ＞
9月中旬～12月	「名手・名人」訪問、聞き書き取材、レポート作成
2016年3月27日～28日	フォーラム開催＜於：東京＞

#### ◆ FOXFIRE 倶楽部の開催

今年度も春と秋の2回、当倶楽部を実施し、「聞き書き甲子園」を主催する行政やNPO、協賛・協力企業、団体と、学生スタッフで「聞き書き甲子園」の現状の課題や今後の展望について話し合うほか、15周年の記念事業についての意見交換を行います。

#### ◆ 「聞き書き作品」の電子図書館化

前年度（第13回）の聞き書き作品データを整理し、今秋を目途にインターネット上の「聞き書き電子図書館」にアップします。

#### ◆ 名人選定事業

当事業の開催当初から（公社）国土緑化推進機構と林野庁を中心に「森の名手・名人」を、第9回より水産庁と（公社）全国漁港漁場協会、全国内水面漁業協同組合連合会を中心に「海・川の名人」が選定されてきましたが、近年、各都道府県から上がる名人の候補者情報が減少しています。そこで、関係者からの情報や農林水産関係の功労者情報等を参考にしつつ、名人候補者の情報収集を、当NPOも積極的に協力し、行うことになりました。その担当として、今年度より、小関緑さんに非常勤の事務局スタッフとして加わっていただきます。

#### ◆ 15周年事業実施に向けた準備

聞き書き甲子園は2016年に第15回目の開催を迎えます。そこで15周年を記念したイベントの実施等について、学生を中心に企画し、準備を行います。

## ② 海洋教育プログラム

前年度に引き続き、公益財団法人日本財団の助成により、岡山県備前市立日生中学校における海洋教育のサポートを行います。

また、海洋教育や森林環境教育を行っている小学校等の事例調査をもとに、アクティブラーニングの観点から、その実践事例をまとめた書籍を制作し、日本文教出版株式会社より出版します。

## 2. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす森づくり事業

### ① 「共存の森」の活動

全国 6 地区 7 地域の農山漁村地域をフィールドに、活動を継続します。

<各地区の活動概要>

関東：昨年に引き続き、千葉県市原市の県有林「鶴舞・創造の森」にて散策道の整備や下草刈等の保全活動を行うとともに、里山の植物に関する調査を行い、図鑑にまとめます。また、山小川集落の暮らしを今後に伝えるために「聞き書き」を行い、12月に地元の方へ披露します。

関西：滋賀県大津市堂町では、地元の年中行事に参加し、祭礼行事に関する「聞き書き」を行うとともに、新規活動参加者の定着を図っていきます。また、奈良県川上村高原地区では、来訪者に向けた高原地区の紹介パンフレットの作成を、地域住民の協力により進めていきます。

北陸：キャノンマーケティングジャパングループの社員ボランティアとともに棚田保全活動と地域の催事への参加を継続して実施します。また、各回の活動参加者とともに、地域の課題について考えるワークショップを行い、次年度以降の活動計画について話し合います。

東海：愛知県豊田市の椿立自治区にて竹林整備を進めつつ、竹の活用方法についての検討を行います。また、獣害被害への対策を考えるため、地域の方へ獣害に関する聞き取り調査を行います。

中四国：岡山県備前市日生にて、アマモ場の再生活動と日生の魚食文化についての聞き書きを行い、日生の暮らしへの理解を深める活動を行います。また、前年度に引き続き日生中学校の海洋教育の授業のサポートを行います。

九州：福岡県八女市矢部村にて、昨年に引き続き、地域の暮らしを知る聞き書きを実施します。また、旧小学校の裏山の公園整備を進め、秋に公園の披露会を予定しています。

本年度の活動は、下記の助成金により実施します。

#### 《助成金》

公益社団法人国土緑化推進機構「緑の募金」中央公募事業

公益財団法人パブリックリソース財団「未来につなぐふるさとプロジェクト基金」（北陸地区）

公益財団大阪コミュニティ財団「2015年度助成」（関西地区）

セブン-イレブン環境財団（東海地区）

NPO 法人おかやま環境ネットワーク 2015年度助成（中国・四国地区）

### ② キャノンマーケティングジャパングループとの協働活動

前年度に引き続き、共存の森「北陸地区」の活動は、キャノンマーケティングジャパングループの社会貢献活動「未来につなぐふるさとプロジェクト」の協働パートナーとして実施します。

### 3. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす活動の普及・啓発事業

#### ① 「学校の森・子どもサミット」の開催

森林環境教育に取り組む小学校を対象に、活動報告や情報交換を行うことを通じて、森林環境教育の輪を全国に広げることを目的に、「学校の森・子どもサミット」を開催します。

本年は、8月3日に岡山県岡山市にて児童たちの発表と有識者によるパネルディスカッションを行うとともに、4日～5日にかけて岡山県西栗倉村立西栗倉小学校の取組を視察します。

#### ② 「海辺の自然再生・高校生」サミットの開催

熊本県八代市にて開催される「全国アマモサミット」の併設イベントとして、第3回「海辺の自然再生・高校生サミット」を公益財団法人セブン-イレブン記念財団の助成により開催します。本年は、地元の熊本県立芦北高等学校をはじめ9校が活動発表と意見交換を行う予定です。

#### ③ インドネシアの地方語と伝統的知識の継承のための「聞き書き」の普及

民族固有の言語（地方語）と生物多様性保全を目的とした、インドネシアの高校生による「聞き書き」をボゴール農科大学附属コルニタ高校やNGOバンタヤ（スラウェシ島パル市）、一般社団法人いりあい・よりあい・まなびあいネットワークの協力とにより実施します。

今年度の聞き書き甲子園フォーラムには、インドネシアから代表高校生を招き、日本の高校生とともに「聞き書き」の成果発表を行います。その後、共存の森「東海地区」にて、地域の皆さんや地元高校生との交流を行う予定です。

### 4. 「共存」を基本とした社会の実現をめざす地域づくり事業

#### ① 能登の里山里海人の知恵の伝承事業

前年度に引き続き、「能登の里山里海人の知恵の伝承事業」を石川県世界農業遺産活用実行委員会から受託し、実施します。当NPOは、8月と10月に予定されている参加高校生の「聞き書き」研修の運営と作品集の制作を行います。

#### ② 大分県 国東半島・宇佐地域の「聞き書き」事業

世界農業遺産に選定された国東半島・宇佐地域で、高校生による「聞き書き」事業を大分県から受託し、実施します。

### 5. その他

#### ① 運営委員会の開催

学生理事や「共存の森」各地区のリーダーを中心に、「共存の森」の活動方針等について話し合う「運営委員会」を年に数回開催します。本年は、「聞き書き甲子園」の15周年記念イベント等の企画についても、話し合いを行います。

#### ② インターン生の受入

5月13日～7月7日まで「聞き書き甲子園」の卒業生の一人である、マウント・アイダ大学の細井幹子さんをインターン生として受け入れます。また、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団のCSOラーニング制度を通じて、2015年6月～2016年1月までお茶の水女子大学の淵

上美海さんをインターン生として受け入れます。

### ③ 広報活動

年に2回、会報誌を発行するとともに、ホームページや facebook、オフィシャルブログ、公式 twitter、メールマガジン等を通じた情報発信を行います。

### ④ 寄付金募集及び賛助会員獲得の強化

主催する催しやイベント出展時等に来場者へ寄付協力を呼びかけを行います。クリック募金などについては、facebook や twitter などでの呼びかけを強化し認知度を向上させます。また、「聞き書き甲子園」や「共存の森」の活動参加者には、賛助会員（あるいは正会員）としての入会を呼びかけます。

第2号議案-2 2015年度予算(案)

2015年度 活動予算書(案)

平成27年度 活動予算書(案)

平成27年5月1日から平成28年4月30日まで

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク  
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	460,000	
賛助会員受取会費	295,000	755,000
2 受取寄附金		
受取寄附金		450,000
3 受取助成金等		
受取助成金	27,053,678	
受取協賛金	34,799,337	61,853,015
4 事業収益		
青少年教育事業収益	60,000	
普及啓発事業収益	240,000	
地域づくり事業収益	3,094,500	3,394,500
経常収益計		66,452,515
II 経常費用		
1 事業費		
(1)人件費		
理事報酬	2,880,000	
給料手当	8,840,000	
法定福利費	840,000	
人件費計	12,560,000	
(2)その他経費		
広告宣伝費	30,000	
印刷費	5,147,021	
支払手数料	181,400	
制作費	1,187,000	
施設借上費	1,976,000	
講師料	3,462,523	
リース料	684,680	
原稿料	131,000	
車両借上費	3,505,508	
事務用品費	829,994	
消耗品費	120,000	
地代家賃	1,800,000	
保険料	192,600	
租税公課	2,000	
旅費交通費	26,188,237	
通信運搬費	2,077,400	
会議費	473,720	
新聞図書費	90,000	
委託費	3,363,000	
雑費	197,552	
書籍仕入高	50,000	
その他経費計	51,689,635	
事業費計		64,249,635

2 管理費			
(1)人件費			
福利厚生費	10,000		
人件費計	10,000		
(2)その他経費			
活動費	300,000		
印刷費	256,000		
支払い手数料	150,000		
制作費	140,000		
施設借上費	5,000		
水道光熱費	15,000		
事務用品費	20,000		
消耗品費	30,000		
修繕費	50,000		
租税公課	30,000		
旅費交通費	150,000		
通信運搬費	50,000		
諸会費	15,000		
会議費	50,000		
新聞図書費	5,000		
委託費	220,000		
道具資材費	70,000		
雑費	50,000		
その他経費計	1,606,000		
管理費計		1,616,000	
経常費用計			65,865,635
当期経常増減額			586,880
税引前当期正味財産増減額			586,880
当期正味財産増減額			586,880
前期繰越正味財産額			16,588,570
次期繰越正味財産額			17,175,450



### 第3号議案-1 役員を選任について

現行役員任期満了に伴う再任、および新役員を選任を求めます。

<再任>

役職	氏名	所属
理事	峯川 大	大東文化大学4年

<新任>

役職	氏名	所属
理事	田中 真奈	関西学院大学2年
理事	浦崎 幹八郎	岐阜工業高等専門学校環境都市工学科4年
理事	本多 美優	デジタルハリウッド大学3年

#### 【参考資料①】新任候補者の略歴

氏名	主な学歴・職歴等
田中 真奈 (たなか まな) 関西学院大学2年 1995年生まれ	2013年 第12回聞き書き甲子園参加 2014年 関西学院大学入学 2015年 共存の森・関西地区リーダー 第14回聞き書き甲子園学生スタッフリーダー
浦崎 幹八郎 (うらさき かんぱ ちろう) 岐阜工業高等専門学校環境都市 工学科4年 1996年生まれ	2013年 第12回聞き書き甲子園参加 2015年 共存の森・東海地区リーダー 聞き書き甲子園15周年企画メンバー
本多 美優 (ほんだ みゆう) デジタルハリウッド大学3年 1994年生まれ	2014年 共存の森づくり活動参加 2015年 「コトバのたび」プロジェクト参加 聞き書き甲子園15周年企画メンバー

#### 【参考資料②】任期満了に伴い退任する役員

役職	氏名	所属
理事	岡部 憲和	九州大学大学院2年

【参考資料③】2015年度の役員一覧（案）

役職	氏名	所属
理事	澁澤 壽一	NPO 法人樹木・環境ネットワーク協会理事長
理事	吉野 奈保子	「聞き書き甲子園」実行委員会事務局
理事	竹田 純一	里地ネットワーク事務局長
理事	あん まくどなると	上智大学大学院地球環境学研究科教授
理事	木村 尚	NPO 法人海辺つくり研究会理事・事務局長
理事	中山 幹生	東京農業大学農山村支援センター研究員
理事	工藤 大貴	慶應義塾大学3年
理事	峯川 大	大東文化大学4年
理事	大黒 朱梨	同志社大学3年
理事	田中 真奈	関西学院大学2年
理事	浦崎 幹八郎	岐阜工業高等専門学校環境都市工学科4年
理事	本多 美優	デジタルハリウッド大学3年
監事	能登谷 愛貴	NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター職員
監事	森山 里菜	株式会社渋谷サービス公社職員

事務局

吉野 奈保子（事務局長）

森山 紗也子

神谷 由衣

小関 緑

認定特定非営利活動法人 共存の森ネットワーク

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-10-9 経堂フコク生命ビル 3 階  
TEL: 03-6432-6580 FAX: 03-6432-6590 E-mail: [mori@kyouzon.org](mailto:mori@kyouzon.org)  
<http://www.kyouzon.org/>